

A.D. サハロフの思い出[†]

B. ファインベルク/小島 英夫 (静岡大学) 訳

アンドレイ・ドミトリエビッチ・サハロフの予期しない死は、私を愕然とさせた。そして今はまだ、わが国と、世界と、地上の心ある人々とにたいして、彼の死が与えた損失の大きさを完全に理解することは困難である。

極度の困難に陥っていた時にも、アンドレイにちょっと会っただけで、明るい未来への期待にふた、び満たされるのだった：真理と、正義と、“小さな”人々のための闘いにおける彼の不屈の勇氣と彼自身の存在とが、私の人生の困難な時における支えであった。

このような人間と、断続的にではあれ、40年にわたって付き合うことができたことは、運命の計り知れない賜物であった。多くの人々にたいする彼の影響を知り尽すことは難しい。私にできることは、多くの印象から私の心の中で形作られてゆく、この非凡な人物の姿の輪郭を、素描しようと試みることだけである。

1949年に、ソヴィエト科学アカデミー物理学研究所で最初に会ったときから、私はA.D. サハロフが特別に創られた人間であることを無意識に理解した。その時彼はまだ30才であったが、原子力の問題に携わる指導的な学者の中で、当時すでに大きな権威を持っていた。

彼は自分の意見を、訥訥とゆっくりと話したが、その言葉はいずれも深く熟考したものであった。彼のこの特徴は、彼の教育活動の障害となった——彼に言わせると、学生達は彼の言うことをよく理解できなかった。一般的で定性的な言葉をつかって、複雑な物理的諸問題を説明するアンドレイの才能は、素晴らしいものであった。

特に強い印象を、1950年のA.D. サハロフとI.

E. タムの制御核融合に関する論文が与えた。イーゴリ・エフゲニエヴィチ (タム) は、この時のことを次のように私に話した：“当時われわれは無我夢中で働いた。すべての時間を原子力の問題に費した。そんなある晩、アンドレイが私の所へやってきた……そして、閉じた円環状の体積内に磁場をつかってプラズマを保持することのできる可能性と、プラズマを熱核反応の温度まで加熱する原理的な可能性とについて、彼のアイデアを説明した。”このようにして、物理学の新しい分野——磁気的な熱核反応の理論と設計——が生まれた。

1950年から1969年まで、アンドレイはソ連邦実験物理学研究所で研究に携わり、核兵器の設計と製造において優れた業績をあげた。

しかしすでに50年代の末から、相対立する二つの超大国——USSR と USA——における核兵器の蓄積の危険と、核実験によってもたらされた環境汚染の増大する脅威とを、彼は非常に深刻に憂慮していた。彼は1961年に、ノヴァヤゼムリヤで行われた60メガトン級水素爆弾の実験に反対した唯一の実験物理学者だった。しかし、彼の意見は通らなかった……

この時、彼はたぶん世界で初めて、個々の人間あるいは政府の首脳部を構成する少数の人間集団が、無制約の権力を握ったとき、核戦争の脅威は計り知れないほど高まるということを理解した。それは新しい考え方の始まりであった。

A.D. サハロフの生活の急変は1968年に始まった。この年に彼は、新しい時代の予言者として、自分の覚え書き“進歩の思想、平和共存、そして思想の自由”で、人類の前に立ちふさがる三つの重要問題として、環境問題、核の問題、および無法な権力の問題に注意を喚起した。この論文は手渡しで流布した。公けに印刷することは不可能で

[†] ソ連科学誌・クヴァント1990年2月号、2～3ページ。なお、サハロフ博士については、簡単な紹介を、訳注として写真に付した。

あった。これを契機として、後にアンドレイはソ連邦実験物理学研究所を去ることを余儀なくされた。彼は以前の科学研究の仕事に戻った。

1969年から1980年1月までの彼の社会的および科学的活動の急変といざこざのすべてを書くことは止めよう。1980年1月に、彼は裁判も審理もなしで、すべての政治的権利を奪われてゴーリキー市へ追放された。まさにこれらの年月に、彼の人格の基本的な特色が十分に発揮されたのである。彼は反体制派の徹底的で非妥協的な弁護人であり、わが国のすべての政治的・経済的および社会的体制の民主化と完全なペレストロイカ(改造)に向けての根本的变化とを求める闘士であった。まことに彼は、わが国におけるペレストロイカの先駆者であった。

彼と彼を支持する人々とに、どのような弾圧が加えられたかは想像を絶するものがある。彼が働いていたI.E. タム名称ソ連邦科学アカデミー物理学研究所の理論物理部門の幹部と同僚は罰せられた。しかし彼らの中の誰も、アンドレイを非難する声明に署名する者はいなかった。

それらの年月を通じて、A.D. サハロフは科学の研究を続けた。陽子の不安定性について既に1967年に発表した研究の続きを彼は完成させた。今では、このユニークな現象を探究するための実験が全世界で行われている。アンドレイの主な興味は、宇宙論と量子重力理論に向けられた。この分野では、最近の10年間に、宇宙の進化の初期段階に起る過程と、素粒子のクォークレプトン構造との間に、深い関係のあることが明らかにされている。

1979年から1988年の間に、アンドレイは8編の論文を書いた。その中には次の論文が含まれている：宇宙のバリオン非対称に関するもの(1979, 1988；この問題についてアンドレイは、A.A. フリードマンの100年記念に捧げられたレニングラードにおける国際会議で、総合報告を行った)、“時間の向きの変換をふくむ宇宙の構造モデル”(1980)、“宇宙の多次元モデル”(1982)。これらの成果は、彼の精神力、科学への献身、現代物理学の原理的問題にたいする絶えざる関心を示している。

責任感についても一言付け加えよう。1986年の12月23日に追放を解除された後で、アンドレイ



アンドレイ・ドミトリエビッチ・サハロフ
1921年に生れ、32才でソ連邦科学アカデミー会員となり、1975年にノーベル平和賞を受賞した。全地域代議員グループを結成し、ソ連邦の政治の民主化のために活動していたが、1989年12月14日急逝した。(訳注)

は国際フォーラム“核のない世界のために、人類の生存のために”への論文を準備していた。私は彼に、いつになったらその論文を読むことができるのかと尋ねた。彼は論文の執筆が遅れていると答えて言った：“わが国に損失を与えないよう配慮して、一節ごとに苦心しているんだ。”

時間はすべてのものを本来の場所へ戻した。アンドレイはペレストロイカを信じ、それを受け入れた。わが国の官僚機構を解体しようとするM. S. ゴルバチョフの真剣な努力を信頼する、と彼は語った。しかし彼は、土地についての、財産についての、そして権力についての基本原則を受け入れることが、憲法第6条の審議によってこれ以上引きのばされることには断固として反対した。彼は変化と政治の舞台への進歩的な若者や有能な政治家および代議員の登場とを、特によるこんでいた。(訳注。憲法第6条は「共産党の政治的役割」を規定しており、一党独裁の妥当性を問う議論の焦点となっていた。)

彼は、人間にたいする恣意的な強圧に反対した。彼の寛容と同情心は、周囲の人々の心を打った。彼は生活を深く愛し、人類がより向上することを信じていた。(訳 こじま ひでお)